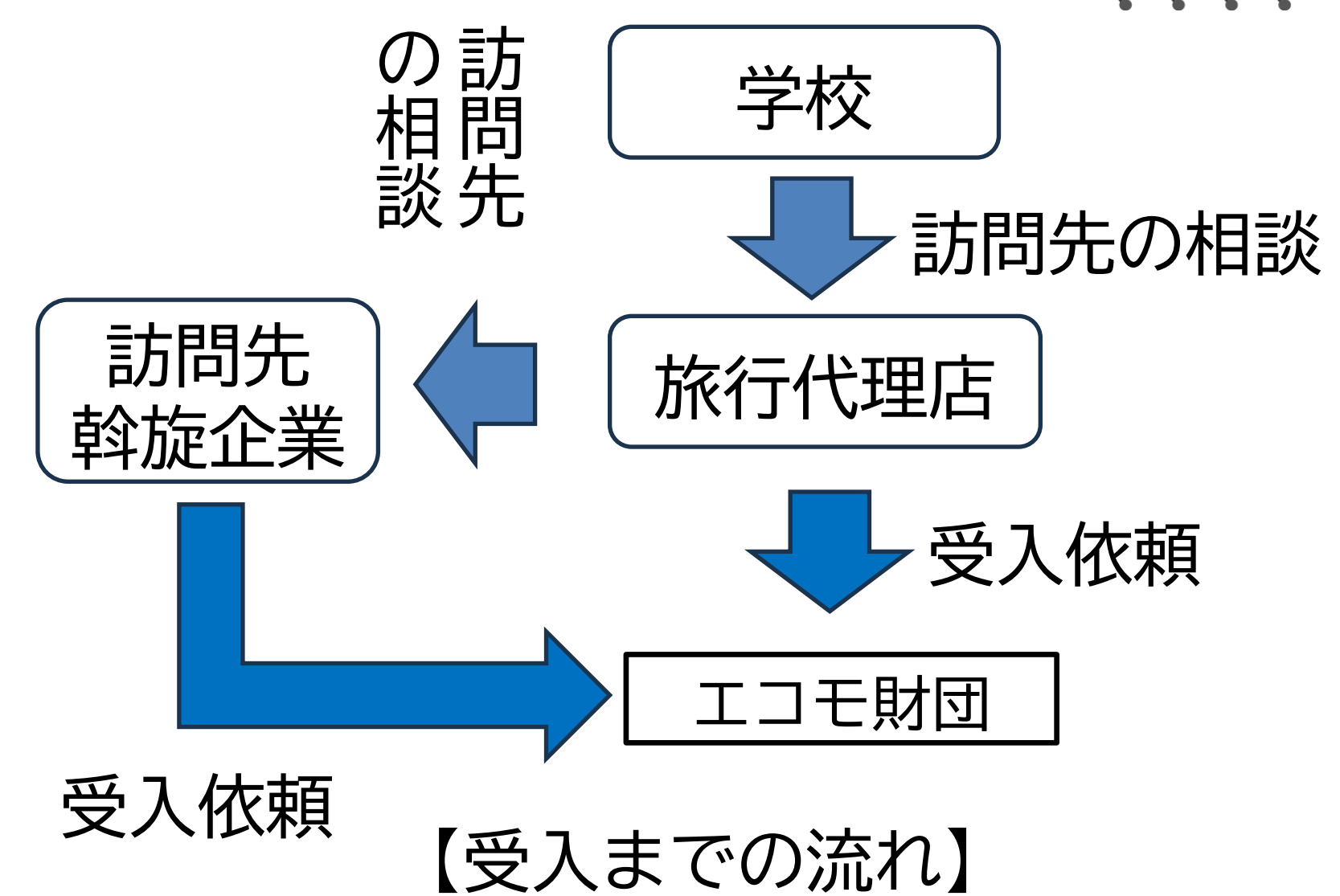


修学旅行や課外学習を通した中高生や教員へのMM教育の実践について

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 岡本英晃、田中苑子

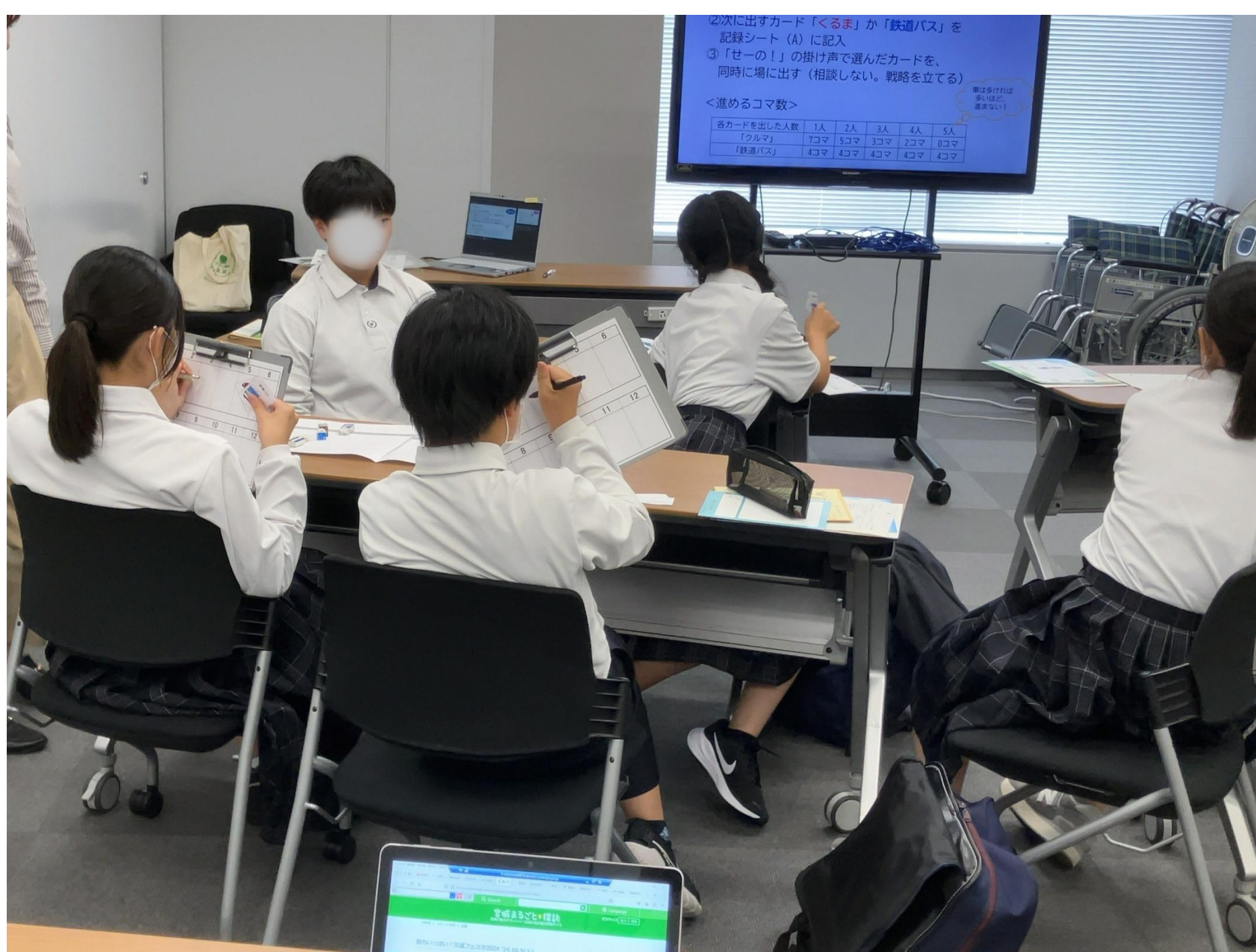
背景と目的

エコモ財団では、人々の行動変容やシビックプライドの醸成を目指し、MM教育の普及を2002年度から実施している。主に自治体や教員への支援を行い、学習プログラムの開発やその普及などを行っている。2023年度からは修学旅行や課外学習で東京都に来る中高生の受け入れを行い、2023年度には11校100名、2024年度には39校391名の学生に対して学習を行った。



実施内容

学習内容としては当財団で行っている交通バリアフリーの取り組みや、交通と地球温暖化問題との関係のほか、年々乗客数が減少している鉄道や乗合バスの現状などについて地域を走る鉄道やバスの画像を交えて説明している。また座学だけではなく、交通すごろくやフードマイレージといったゲームのほか、道路デザインの工夫や車いす体験などを行い、学生が少しでも関心を持つように工夫をして実施をしている。学習の中では学生の地域を走る公共交通の画像のほかに、利用者が減少し本数が減ったことで、放課後に駅まで急いで帰らなければならない学校の事例など身近に感じる話題を取り入れ工夫をすることで、公共交通の利用者減少に対して、どうしたら改善できるか考える学生も一定程度見受けられる。



交通すごろく



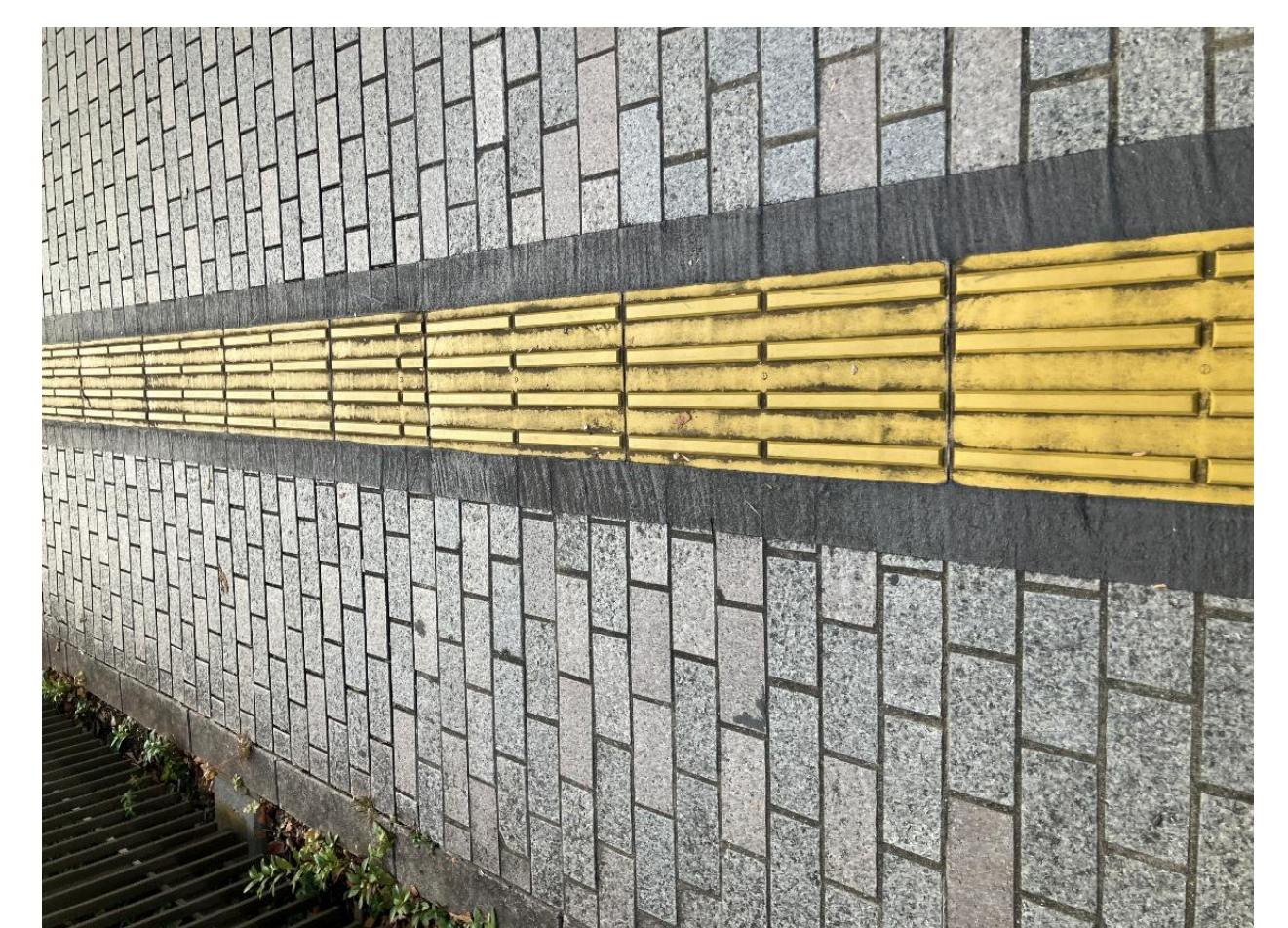
フードマイレージ



車いす体験

効果

講義内容は、学生の男女比や当日の雰囲気、専攻（デザイン学科、化学科など）などにより内容を変えることで、学生の関心を引くように工夫をしている。また、講義後に実施したアンケートでは、「バスがなくなると体が不自由な人やけがをしている人にとってどうなるのか学校でも勉強したい。」といった回答もあり、本取組が地域の公共交通への関心を高めることや、学生自身の行動を見直すきっかけとなっていることがうかがえる。さらに、引率として教員が同行する場合もあるが、学習の様子を見学することで公共交通が学習の題材となることを認識し、「帰ったら授業の題材として使ってみたい」という教員も見受けられた。



色の工夫（誘導ブロックの両端に黒く塗りつぶす）でわかりやすくした点字ブロックの例

まとめ

本発表では修学旅行や課外学習の学生を対象としたMM教育についての事例を紹介した。近年、修学旅行や課外学習の際に企業訪問を行い、企業の取り組みを学ぶ機会が組み込まれている傾向がある。本取組は、旅行代理店や訪問先を斡旋する企業からの依頼に応じて実施しており、月に5校程度依頼を受けている状況である。こういった取り組みは都内だけでなく、修学旅行先として選ばれる地域でも実践できる内容であるため、今後の全国への広がりを期待している。

当財団の事業内容や教材等は、
MM教育ポータルサイトに掲載しています。
(<https://www.mm-education.jp>)



<お問い合わせ>
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 岡本、田中
TEL:03-5844-6268、E-mail:info@mm-education.jp